

明るい小矢部

No. 219
2024年1・2月号
年4回12000部発行

発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市五七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842

元旦に能登半島地震

被災支援へ走る

元旦の夕方に見えた能登半島地震で、能登地方全域、富山県でも氷見市、小矢部市など、奥西地域は大きな被害を受けました。今に避難所で避難生活を送る人が多数に上り、災害関連死防止が急務です。原発のある志賀町で震度7を観測、能登半島北東部で陸地が4メートルも隆起し、数千年に一度ともいわれる大地震だそうす。地震発生直後から被災支援に奔走した上田由美子市議に、発生間もなくの取組みを報告してもらいました。

揺れが収まってから 正得公民館へ

市議会議員 上田由美子

私は、地震が起きたとき、自宅に。だんだん激しく揺れる地震に外へ飛び出しました。揺れがおさまってすぐ、指定避難所である正得公民館へ行きました。振興会役員が集ま



植生地区で被害を確認する
上田市議(左) 11月4日



若林地区で液状化した水田=1月13日

り、情報収集や公民館の点検をしています。正得地区内では防犯組合のパトロール車、分団の消防車、駐在所のパトカーが走り回り、家の倒壊がないか、助けを求める人がいないか確認していました。夜は、井戸水の濁りや断水地区、停電の情報が入り、早急な復旧が必要との思いを強くしました。

被害の把握と 市へ支援要請

翌2日は、朝7時から電話やメールで、近所の方や友人に無事かどうか、停電、井戸水の濁り、水道の断水がないかを尋ねました。家の中の壁がはがれているとの声もありました。

午前9時過ぎには地区公民館での振興会の打合せに参加し、神社の鳥居のズレ、神社の灯籠倒壊や墓石のズレ、民家塀の破損、井戸水の濁りなどの報告があり、それを市にお渡ししました。

4日は、植生地区の吉和台に行き、水道の断水が一部で続いていること、屋根瓦が落ち、外壁がはがれている家の状態を確認しました。道路にき裂が入り、傾いている家が複数ありました。



国道359号の道路陥没(内山地区)を調査する坂本ひろし(党県書記長)と砂田前市議 11月6日

地震対策で桜井市長に申し入れ

日本共産党小矢部市委員会(砂田喜昭委員長)は1月10日、桜井市長に地震対策として、急いで復旧すべき課題とともに、「上下水道や道路などライフラインの補強対策」、「個人住宅の耐震化・耐震シェルター・耐震ベッドなどの普及」、「志賀原発の廃炉」などを申し入れました。



桜井市長(右端)とその左隣へ砂田氏、上田市議

救援募金にご協力を

日本共産党は地震災害の救援募金に取り組んでいます。ぜひご協力ください。1月8日には憲法を守る小矢部の会など市民団体とともに、アルビス石動駅店横で募金を訴えました。



アルビス石動駅店横で募金の訴え

小池書記局長ら市長に募金渡す

石川・七尾

日本共産党の小池晃書記局長、参院議員と藤野保史前衆院議員らは11日、能登半島地震で震度6強の揺れに見舞われ、ほぼ全域で断水が続く石川県七尾市を訪れ、茶谷義隆市長に会い、日本共産党に寄せられた第1次分の救援募金目録を手渡しました。

能登半島地震で大量の廃棄物の処理に困った方も多いのでは。小矢部市は2日にはもう不燃ゴミの無料引受を発表、その後罹災証明があれば可燃、不燃とも災害廃棄物を分別しての無料受け入れをはじめた▼91年の台風によって東磐谷地区で発生した「小矢部大火」被害に際し、市は焼け跡の不燃物を無料で引き受ける制度を、初めてつくった。この良き伝統を生かしたのだろうか▼自然災害は別として、売らんが為の頻繁なモデルチェンジによる大量生産、大量消費と大量廃棄は資本主義につきものの浪費の悪循環ではないか。廃棄物処理は製造者が責任を持ち、その地域で発生した廃棄物はそこで処理すべきだろう▼ところが今、高速道路網をフル活用して、中京、東京、関西の産業廃棄物が、岐阜県高山市の別荘地「清流ヶベツクの森」のすぐ隣に持ち込まれようとしている。汚泥、燃えがら、動物の死体、糞尿、煤塵、鋳滓、廃石綿、水銀など18品目である。高山市の六厩(むまや)地内に東京ドーム2杯分の産業廃棄物最終処分場建設が岐阜県に申請された▼この森にはカワモズクなど貴重な動植物が生育し、その湿地帯には庄川の源流となる六厩川が流れている。「清流の国」岐阜県を象徴する場所でもある▼庄川下流域に位置する富山県にとっては、35万人の上水道用水と井戸水の水源であり、農業用水でもある。土地改良区や県西部の自治体、自民党市議団なども反対、慎重にこの声を上げはじめているが、県や小矢部市はまだ表明していない。災害廃棄物で素早い働きをした小矢部市こそ真っ先に反対を明言すべきではないか。